

公表： 令和6年 2月 28日

事業所名：edu.base谷山

	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○		備品設置場所の調整を行っている。	基準上は問題はないが、今後も常に備品等の設置位置等の調整を行い、スペース確保を行う。
	2 職員の配置数は適切であるか	○			1日の職員配置を適切に保つために、職員の休みが重ならないように配慮している	特になし
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか		○		見通しが立てられるよう1日のスケジュールを白板に示している。またトイレの位置や荷物の置き場所等も表示している。	今後はバリアフリー化できるよう手すり等の設置等を行っていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○			活動終了後に清掃を行い、事業所を清潔に保っている。	活動内容に応じて心地よく過ごせるよう、随時工夫をしていく
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			会社全体で業務改善委員会を設立し、委員会を中心に各事業所で業務改善を図っている。	業務改善による目標をより細かく設定していく
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			評価表を元に改善できる点は早急に改善を図っている。	回答率を100%にする取り組みを行い、多くの意見を把握し、業務改善につなげていく
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			保護者連絡ツールを利用し、評価表結果を保護者もいつでも確認できるようにしている	特になし
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	特になし	外部評価を行ってもらい、業務改善に繋げられるようにする。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			会社全体で研修委員会を設立し、委員会を中心に知識・技術の向上のための資料を月に1回配布している。	外部研修の参加を今よりも多く参加できるよう様々な研修の情報収集を行う
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			児童一人一人にアセスメントツールを使用している。ツールを元に半年に一度、ケース会議を実施している。その結果を児童発達支援計画に反映している。	特になし
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			児童一人一人にアセスメントツールを使用している。ツールを元に半年に一度、ケース会議を実施している。	アセスメントツールをどの職員も一定に使用できるよう今後も使い続けながら研修を行っていく
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか		○		特になし	発達支援、家族支援を中心に支援内容を考える機会が多いので、今後は地域支援にも目を向けてよりよい支援内容を検討していけるようする。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			個々のニーズに合わせて関わりを協議し支援を行っている	就労に向けて外部との連携を強化し、高校生を就労に繋げやすい体制を作る。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			立てたプランに対し、その日に合わせて詳細を決めることが出来ている。	専門職によるアセスメントを基に活動プログラムにも反映しているが、より専門的に活動プログラムの立案を行っていく
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			様々な種類の活動が各曜日にバランスよく分散するようカリキュラムを作っている。	定期的に新規の活動を立案していく。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成しているか	○			子供の状況に合わせて計画を立てることができている。	特になし
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			その日のスケジュールはデータを共有しており、常に確認を取ることができるようにしている。	役割分担について確認するも、予測していないこともあるため、多岐にわたる視点でより細かく役割分担を行っていく
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		勤務時間内に必要な情報をできるだけ共有している	特になし
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			毎日記録ができていく。	客観的な事実をより分かりやすい文で記録できるよう努めたい。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			児童一人一人ケース会議を行い、検討している。	特になし	
21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			児発管のみならず、担当指導員の参加ができていく	担当者会議前に職員間での情報共有や方向性を決めて取り組んでいるため継続して行っていく	
22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			関係者と密に連絡を取りながら支援を行うことができるよう体制を整えた。		

公表： 令和6年 2月 28日

事業所名：edu.base谷山

	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか					該当なし
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか					該当なし
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか			○	特になし	保育所や幼稚園等との連携ができていない部分がある。 新1年生の児童について、利用開始前の段階でより情報を集められるようにしていく。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか			○	小学校から中学校への移行支援として情報共有を図っている	小学1年生の利用開始時も通園していた園や児童発達支援事業所との情報共有を図っていく
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか			○	特になし	今後連携を図っていく。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	特になし	現状では交流機会がないため、今後の検討課題である。
	29 (自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか			○	特になし	情報収集不足により、会議開催等の実際が把握できていないため、自立支援会議等の参加を踏まえた情報収集を行っていく。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			支援記録を保護者の携帯でもいつでも確認できるようにしている	送迎時や連絡ツールでのやり取りを通じて保護者と情報交換を行い、共通理解を持つよう努めている。
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか			○	保護者会を実施している。	定期的な面談を行い、困り感を把握しサポートを行っていく。	
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時など丁寧に説明ができるよう時間にゆとりを持って契約をしている	特になし
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			児発管を中心に、職員全体で計画書の話合いができており、職種ごとの関わりを明確に定めている	特になし
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか			○	悩みや相談がしやすいよう、なるべく日頃からコミュニケーションを図っている	主に保護者会での相談が主となっているため、悩み事の把握や相談できる環境を増やしていく必要がある。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	忙しい保護者にも少しでも参加してもらえよう、オンラインも併用した保護者会を行なっている	年に1回、保護者会を開催しているがオンライン参加者も多く、保護者同士の交流の機会が少ない。保護者会の在り方を再度検討していく。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			相談等あった時はすぐに職員間で共有を図り、対応できるよう検討を行っている	特になし
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか			○	会報等の発行は行っていないものの、活動概要は日々の支援記録にて、長期休暇の際の行事予定等は保護者に配布を行い発信している。	定期的な会報発行ができるよう、業務体制を整えていく
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			個人ファイルを作成し、関係者以外は閲覧できないような環境で保管している。	特になし
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			事前に意思伝達方法など情報共有を図り、日々の関わりを通じたアセスメント結果を基に職員で共通した配慮ができるようにしている	特になし
40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○		活動を通して、地域の方と交流する機会を持てるよう調整を行う。	
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか			○	マニュアル等は策定済だが発生を想定した訓練は未実施。	様々なマニュアルの更新を行い、その内容を保護者様にも共有できるよう努める。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか			○	法定の訓練は実施できている。	訓練を定期的実施するように努める
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○			保護者や関係機関から収集した情報を支援ツールソフトに入力し、事前に職員全員が確認できるようにしている	特になし
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			○		食物アレルギーについて把握はしているが、医師の指示書がない場合がある。

公表： 令和6年 2月 28日

事業所名：edu.base谷山

	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
対応	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	<input type="radio"/>			すぐに共有できるよう、チャットツールを利用して、すぐに共有を図れるようにしている	特になし
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	<input type="radio"/>			事業所内研修だけでなく、外部講師による研修の機会を設けている	
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		<input type="radio"/>		身体拘束について、定期的に研修を実施し共有を行っている。	計画書については未記載の場合もあるため、改善をしていく。

- この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。
- 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。（該当する方に○を記入）